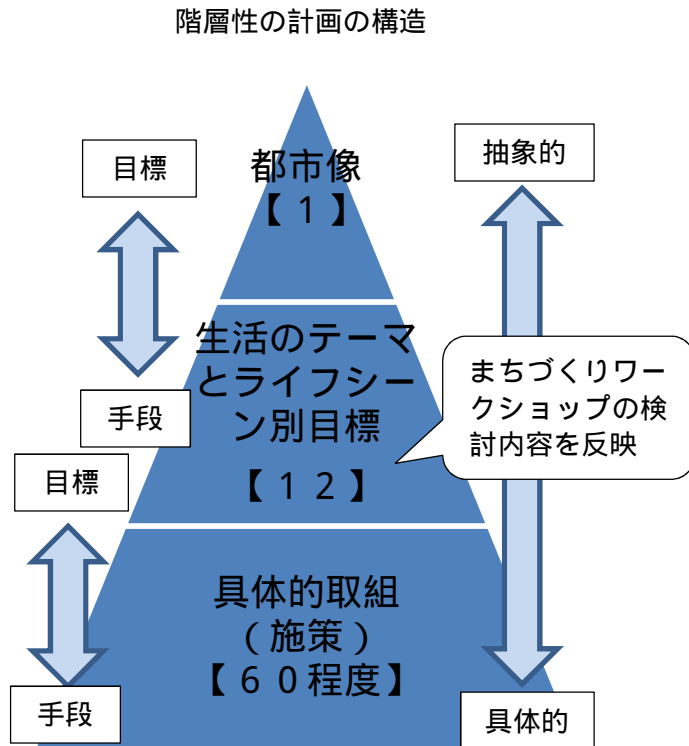


川西まちづくりワークショップ・第3回(平成23年9月23日)のまとめ(案)

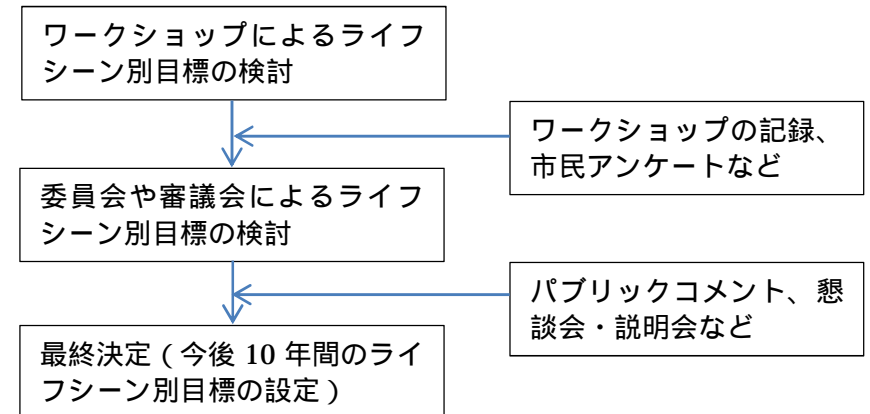
総合計画の構造とライフシーン別目標

- 総合計画の構造は概ね下図に示すとおりであり、都市像を実現する手段として12のライフシーンの目標があり、ライフシーンの目標を実現する手段として60程の施策があります。
- 階層が上がると数が少なくなり、下の階層のいくつかの内容をくくった新たに表現になります。このため、上の階層ほど抽象的な内容になり、下の階層へ行くほど具体的な内容になります。



ライフシーン別目標の検討手順

- 一般的にライフシーンの目標は、極端に言えば市民の数だけあります。
- しかし、個人的または特殊な事情を一旦横に置いて、多くの人が共有できるものに絞り込んでいくと、ライフシーンの目標は収束すると考えられます。
- 前回のワークショップにおいて、皆さんに検討していただいた目標(個人的で特殊な目標はありませんでしたが)を、なるべく多くの人が共有できるものとなるよう、次ページ以降のように再構築してみました。
- 今後、委員会や審議会の検討を経て、新たな総合計画に掲げる目標を決めていきます。次ページ以降の目標の案は、そのたたき台となるものであり、仮のものです。ワークショップの記録、アンケート結果などを踏まえた今後の審議の中で修正されていきます。



『学ぶ』

【ワークショップ意見の特徴】

- 多様で優れた教育と学習の機会を充実することが望まれています。
- そのためには、施設や環境の整備はもとより、学習意欲の向上や学びあい・相互学習など努力と工夫が重要ではないかという意見が聞かれました。

【ライフシーン『学ぶ』の目標】

少子高齢・成熟社会を迎える中で、市民の教育・学習に対するニーズは高まり、量的のみならず質的な充実が求められています。このため、既存の施設や仕組みの有効活用を進める必要があり、世代間、市内外等を含めた人の交流を活発化するなど人の輪による教育・学習内容の向上を図り、川西スタイルの学びのまちをめざします。



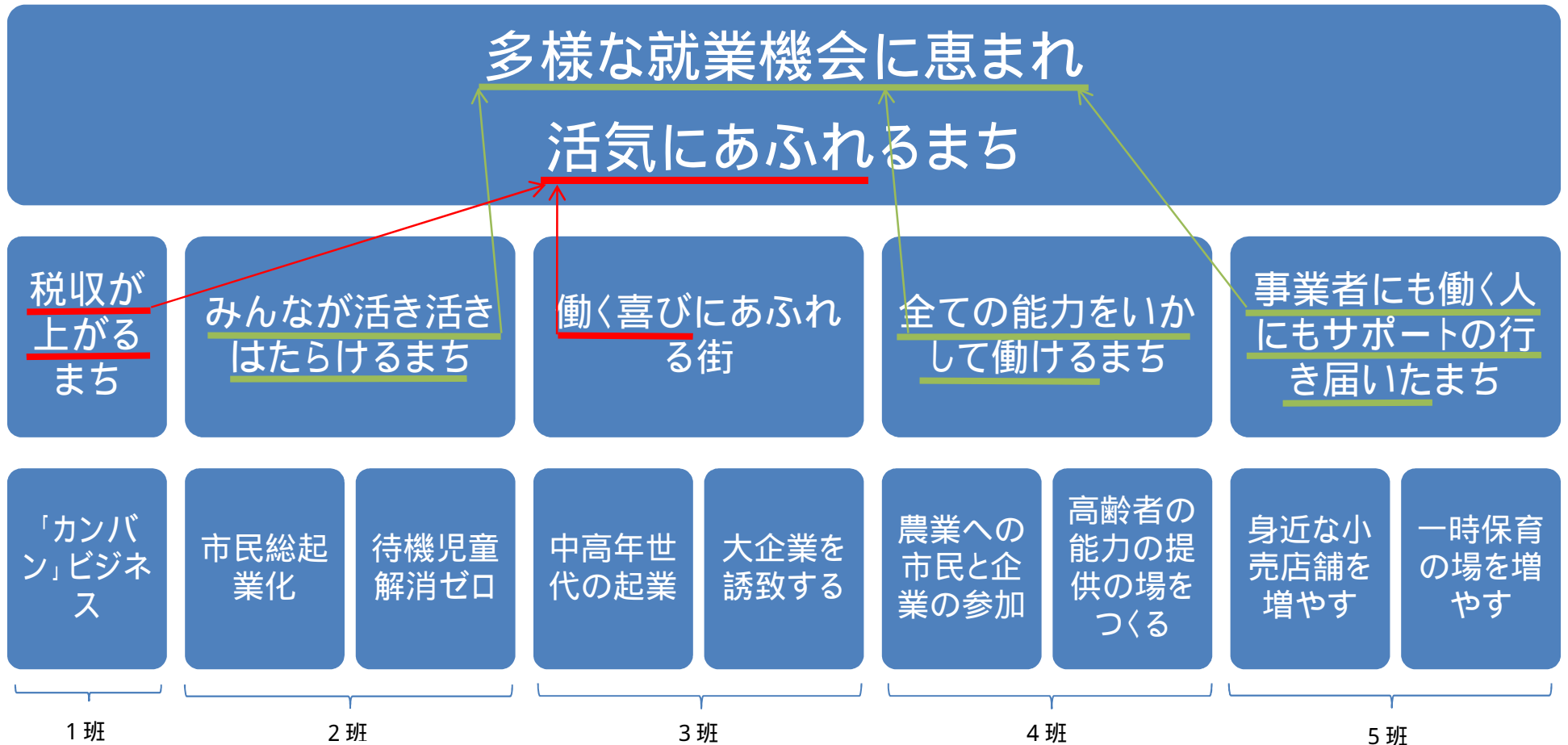
『働く』

【ワークショップ意見の特徴】

- 住宅都市として発展してきた川西市は、産業立地が少なく、働く場所が限られており、財政的には法人税収入が低くなっています。
- 地域の活力を高めるためには、経済活性化と財政の安定化が必要です。このため、産業を支える環境づくりが求められています。

【ライフシーン『働く』の目標】

高齢者や女性（主婦）など、様々な雇用ニーズにも対応し、市内で働く機会を得られるよう企業誘致や地元産業の支援、起業促進などを進めることにより、活力あるまちをめざします。



『楽しむ』

【ワークショップ意見の特徴】

- 幅広い世代が、スポーツ、文化、レジャーなどを楽しむことができる環境づくりが望まれています。
- 市民のみならず、市外からも人が訪れ楽しむことができる空間、集う人が楽しみを創り出す環境が望まれています。

【ライフシーン『楽しむ』の目標】

成熟社会における生活に関する市民の価値観は、「働く」という経済的なものから「暮らしを楽しむ」方向にシフトしています。ベッドタウンから生活文化都市への転換を図り、生活の魅力を創造できるまちづくりを進めます。

